

## はじめまして グループ情報



手話でつなぐ愛  
〈あじさい会〉

回覧板で知った手話講習会に、友だちを誘い合って何気なく参加。リーダーの熱意に励まされながら、家族的なグループの和にひかれてもう十年。技術も大切だけれど身障者とのふれ合いが今は生き甲斐です——と、明るい笑顔は主婦の土谷さん、土屋さん。身障者の方々への理解を少しでも深めたいと、プリントを見ながら一生懸命指文字に取りくむ謙虚な新会員の杉江さんは、まだ若いおじょうさんだ。

救急の場合の医師との連絡、体育祭、交流会と、地味な活動が続く中で、六年前、二ヶ月も会員が交替で自動車教習所に付き添い、運転免許証を手にした時の喜びは忘れられない思い出という。

連絡先 下田市蓮台寺一九六  
電話 〇五五八二(2)四九八一(土谷)  
代表者 藤井吉康



お茶を通じてボランティア意識を  
〈一期会〉

会員同志の親睦を図り、地域に貢献するために、第一期六合婦人学級からの自主グループとして誕生。会員は十五名。中河町の鈴木貞先生を講師に茶道の勉強をしている。毎年会員手作りのお菓子を持って、老人ホームへ茶道学習会に出かけたり、地区の文化祭では、茶席コーナーを設けたり、市の婦人祭での茶会に参加し、多くの方々に喜ばれている。

昨年より六合中学校にクラブ活動として茶道部が発足。会員が鈴木先生と共に指導にあたられている。

“人と人とのつながりの中で一期一会を大切に”が会のスローガン。六合コミュニティセンターを拠点に、コミュニティ活動の一環として息の長い会になるように！

連絡先 島田市阿知ヶ谷七一一  
電話 〇五四七三(6)〇七六〇  
代表者 園田八重子



手作りの味を求めて  
〈ハッピーグループ〉

八月の暑いさなか、浜北市のハッピーグループのママさん達は、農協の一室でトマトケチャップ作りに奮戦中。二百キロものトマトを二日がかりで、ミキサーにかけ、大鍋で煮る作業。グループ結成以来十年、毎年この作業で楽しみにしている人もいるからと、全員はりきっている。

会員は、二十代～五十代の専業・兼業農家の主婦十名。自分達の作った農作物を利用して、安心して食べられる手作りの味を求めるのが目標。その他にも、ハム、ベーコン、みそ、シイタケ、シメジ、その他の保存食作りも手掛けている。

これからも一年に一品ずつ増やしていきたいとのこと。物作りを通して、意見の交換、地域の交流もすっかりやっている。

連絡先 浜北市寺島八二三  
電話 〇五三五八(7)三四七三  
代表者 中安千秋

# ★ 情報コーナー ★

## 「県立婦人就業援助センター」を訪ねて

住所 静岡市黒金町五一  
電話 〇五四二(2)六二七五

静岡駅北口より西へ五五〇メートル、徒歩で七、八分のところに六階建て静岡県勤労者総合会館がある。このモダンな茶の建物の四階にある県立婦人就業援助センター。就業を希望する婦人に対して、就業に必要な知識や技術を身に付けるための各種の技術講習会を実施。また就業に関する相談、指導、情報の提供等も実施し、婦人の総合的な就業機会の拡大と援助を行っている。

昭和六十一年度の技術講習会では、経理事務、病人(老人)介護、販売事務OA、和裁があり、短期講習としてワープロと給食が入っていた。日数は二十一日間(ただし科目により異なる。)時間は、午



前九時三十分から午後三時三十分まで。受講料は無料。(ただし材料費等は一部受講者負担)

ここでは、求職者に対し就業に関する相談に対応できるよう就業相談員を置いている。センターで出している婦人就業日より……:の中に講習修了生のメッセージが載せられていた。簿記二級を取得された方、病人(老人)介護を受講された方、給食を受講された方……:毎日が勉強、毎日が努力、みんなの応援で……:と生き生き、仕事をされている。

昔は内職相談が専門だったが、今や社会参加をして就業をという意欲ある婦人のためにセンターは動いている。家庭から脱皮して婦人が望む職種は、トップが「事務系」。実際に働いている職種は、パートで「技能、生産労務」が六〇パーセント、「販売、サービス」が三〇パーセント。ここでの受講者は、会場の関係で、静岡、浜松、沼津の人が多い。県内の婦人達がこのセンターを活用し、自分に何ができるのか考え、働く気がまえを持ち再就職してほしいものだ。今後は、就業する婦人が徐々に増えていくことだろう。センターの今後を期待している。

編集員 宮村清子

## 「静岡公共職業安定所」を訪ねて

住所 静岡市春日二丁目四二五  
電話 〇五四二(53)一一九五

静鉄春日町電停より歩いて三分、住宅街の真ん中に位置している。

四十二名の職員が勤務されており、仕事の内容としては、就職相談(職業紹介)、企業の求人受付、雇用保険関係事務、助成金の取り扱い等があげられる。特に、月・火・木・金曜日の午前中は、一日平均一七〇人位の人達が保険関係の用事でここを訪れている。求職の場合、①受付をする。②求職票を出す。(これに希望職種等を記載)

③三部門別に面接:④職業相談第一部門:五十五才未満の方を対象、⑤職業相談第二部門:十八才未満の方、母子家庭の母を対象、⑥特別援助部門:障害者、高齢者対象(アドバイザーしている。)④企業の担当者に連絡、⑤紹介状を渡す。

私が訪れた時、安定所の中では、若い男女が数十人公開カードを見ていた。相談するということなく、カードを見に来るだけの人も多いそうだ。毎年五月に新規求職申し込みをした者について、求職申し込み時点における就業、不就業の状況及び居住地等を調査した資料を見せていただいた。



調査対象一〇、八九二人、うち女子は五、八四二人(全体の五三・六パーセント)となっている。年齢別では、女子は、二十五才未満が三五・九パーセント、二十五・三十四才までの者が二五・五パーセントと、この二つの若い年齢層で全体の六二・四パーセントを占めている。世帯の状況として男女別にみると男子は配偶者のある者が二、六九〇人、女子においては配偶者のある者(主婦)は、二、九七二人である。女性の場合朝八時というより、八時三十分か九時より勤務という希望者が多いということもお聞きした。来年十月より、雇用情報システムができ、全国の求人情報が把握できるという。多くの人に利用されることだろう。

編集員 宮村清子



## 海外スポット

# 人隣

## 原田 康代

(アメリカ  
カリフォルニア州  
ロサンゼルス在住)

一昨年のクリスマスが終わった頃、わが家の隣にカナダ人家族がトロントから引越して来ました。主人はブラッド、奥さんはオーストラリア人のスーザン、子供は十才の男の子と八才の女の子セーラ。引越して来て三ヶ月もしないうちに、アメリカ社会に溶け込み、私達家族を様々な未知の世界へ連れ出して行ってくれました。スーザン家族の行っている教会、大きなステンドグラスの窓と立派なパイプオルガン、赤ちゃんの洗礼等、初めて接する異文化。そしてアメリカ人の陽気なパーティ。いつの間にかスーザン家族に引っぱられて行ったのです。



筆者(左側)とスーザン

とても仲の良いブラッドとスーザン。「今日は、スーザンの誕生日だから子供達を預かって欲しい。」と言って二人で外へ食事に出かけたり、「今日はパーティをしよう。」と言うと、ブラッドが張り切って食事を作ったり、とてもハッピーな家族でした。

ところが、今年になってある日突然スーザンが「私はブラッドと別れることにした。彼はニューヨークに住むと言って出て行ってしまった。彼は夢を見ている。」と私に悲しそうに告げました。

アメリカでは、日本に比べ離婚が非常に多いと言われている。しかし子供が成人するまでは、両親が責任を持って教育するというのが常です。隣りでも父親のブラッドがニューヨークから子供達に会



ボトラック(持ち寄り)パーティで筆者(左から3番目)

いに来ます。そしてその間離婚した夫婦は努めて顔を合わせない様にしていきます。父と子だけの時を過ごしている間、スーザンは友人の家へ行ってしまふ。父と子、母と子という絆だけは責任を持って果たしていこうとする姿が強く感じられます。

ある夏の日、私と子供とセーラで海へ泳ぎに行きました。無邪気に砂浜で遊ぶ子供には父母の離婚の影などはありません。夕方スーザンがセーラを迎えに来ました。浜辺を十分間ランニングして来たと言います。母の姿を見てセーラは走って行き、二人は何年も会っていない恋人同志のように抱き合いました。そして二人で手をつな

ぎ元の砂浜を走って帰りました。私は、二人の後ろ姿を見送りながら、母と子がいつまでも手を取り合ってこれからの人生を楽しく生きてもらいたいと願わずにはいられませんでした。

離婚がいくら多いと言っても一般的な女性にとってやはり大きな痛みであると思います。陽気でしんの強いスーザンも「二度と結婚はしたくない。暫くしたらオーストラリアに帰りたい。」と言うのですから。私にとって素晴らしき友人スーザン。オーストラリア、カナダ、アメリカと三つの国を多くの友人に囲まれながら生きてきたスーザン。これからもかわいい子供達と強く生きて欲しいと心から願っています。

今はもう、近くの市へ引越してしまつて隣りにはいません。

又いつか素晴らしく成長した子供達と、ますます活動的で陽気になったスーザンと再会したいと思います。

筆者は、静岡県商工部観光貿易課ロサンゼルス駐在原田英之氏夫人



島田市 杉本三保子(20代)

社会の半数を占める女性の意識改革は、世の中を変える大きな力となるはずです。

若い女性も、もっともつと問題意識を持ち、物質的な豊かさに惑わされることなく、確かな目を養わなくてはなりません。私自身も、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると改めて考えさせられました。

婦人のために策定された県計画の現に大いに期待し、今後より充実した情報を提供してほしいと思います。

岡部町 松谷和子(30代)

デラシネの思想に近い日常生活の発想をしてきた私ですが、子育てを通して自分とは、女性とは、社会とはを考えるようになりました。その意味でこの情報誌は一つの刺激剤!

はじめましてのコーナーでの有馬さんの「三十代は未完成で、四十代からが発」を読んで、勇気づけられました。がんばろうと思えます。

静岡市 大塚貴美江(40代)

こんななまで婦人問題が現実に取り組まれているのかと、驚きと同時に、私も何がしの意識改革された思いです。海外スポットの「中国の女性」を読みました。婦人問題については我が国が学ぶことが多いようです。

ねっとわあくが一人でも多くの人の目にふれ、話題になることを望みます。

三重県 安藤喜代美(40代)

「ねっとわあく」読みました。昨年頃から興味を持ちはじめた婦人問題だけに、構想の具体的実現に向う過程には関心があります。

他県に移り住んだのは残念ですが、又読ませて欲しいと思っています。

下田市 前田恵美(30代)

このような情報誌のあることをはじめて知り勉強になりました。「婦人のための静岡県計画」の策定もその一つです。

個人の尊重と男女の平等を基本理念に、婦人の地位向上をめざしたこの計画は、私たち働く女性にとり朗報です。婦人たちが抱えている様々な問題を解決し、一人／＼が心から「男女は平等」といえる日を目指して、一層の努力が望まれます。

# 本の紹介



「女40歳の出発」 高橋ますみ著  
何かをしようと決意したら、まず小さな事から始めよう。女性の持つしなやかな感性と行動力で、着実に未来を拓いて行く主婦たちの姿が見える。  
学陽書房 一、一〇〇円(M・K)



「妻たちはガラスの靴を脱ぐ」 田中喜美子著  
著者は主婦の投稿誌の編集長。幸福な結婚をしたから幸福になれるのではないと。それはくずれやすい。幸福への追求が描かれている。  
汐文社 一、二〇〇円(K・T)



「女は世界をどう変えるか」 朝日新聞社編  
婦人は世界人口の半分を占め、全仕事の三分の二をやっているが、所得は全体の十分の一、そして資産は百分の一以下。今、女性達は何を考え、何を望むべきか? 朝日新聞社 一、〇〇〇円(M・O)



「娘は相棒」 藤本統紀子著  
母と娘のゆつくりペース、娘二人の母である統紀子さん。娘達と共に再び手にした青春を十二分に生きたい……いろいろな出来事の記憶が成長記録になっている。  
学習研究社 八五〇円(K・M)



「お父さんはとうめい人間」 青い窓の会編  
三十年間を通して、子供達がお父さんに語りかけた詩集。その中で、子供達は無心に、そして意外に適切に、お父さん、お母さんの姿を見つめている。  
光雲社 一、〇〇〇円(S・O)

# 61年度 編集員紹介

引き込み思案の怠け者が、大変な仕事に加わるこ  
 となって大重。「さて、困った！」と本を読み漁  
 り、唯今、必死でにわか勉強中。難しい本に接する  
 だけでも、自分にとってはプラスだが、お役に立て  
 るかどうかは甚だ疑問。

女性の生き方が多様化し、各分野での女性の活躍  
 が目立つ現代。そうした時代の流れの中で、行政・  
 社会・ひいては家庭の中で、女性がどのような立場  
 におかれているのか、私なりに考えてみたいと思っ  
 ます。

一人で楽しむ読書から、複数の目で深め合う読書  
 会活動を続けて数年。読む事、書く事、仲間から得  
 る喜びは大きく広い。就業だけが女性の社会参加で  
 はない筈。確かな選択をするために、より身近な情  
 報誌づくりに努力したい。

「主婦だけの肩書き」からの風景は退屈でした。  
 市の婦人講座から五年目。今年の目標は、書くこと  
 に何かしらかわってほしいことです。  
 「やってみよう」と「やれる」のは大違いです  
 が、三十代の挑戦としてやってみよう。

平穏な主婦として家庭にいた私。二年前、自己啓  
 発のためパートとして再就職！ 仕事上の能力はと  
 もかく精一杯の力を出しきることへの満足感はある。  
 健康でいられる今、主人と娘二人をバックに情報  
 誌作りに参加してみよう。



宮村 清子 (41)  
島田市



田口 和子 (38)  
裾野市



加藤美百合 (48)  
下田市



大山 幸子 (37)  
浜松市



太田美恵子 (45)  
静岡市

取材を通して、地味な仕事、地道な活動にコ  
 ツコツと取りくむ多くの女性たちに出逢えたこ  
 とは、大きな喜びでした。

柔軟な姿勢と努力。当たり前のことをあたり  
 前に受け止める素直さが大切なのですね。

(M.K)

日常生活の中に、目的をもち、緊張した時を  
 過ごすことの意義を新たに感じました。見識も  
 広まり、好奇心も旺盛に。新聞と雑誌が好きに  
 なり、楽しみが増えました。経験してみてもよ  
 かった！が実感。

(K.T)

婦人のための情報誌「ねっとわあく」

第 9 号

昭和 61 年 10 月  
 編集・発行 静岡県生活環境部婦人青少年課  
 〒420 静岡市追手町9番6号  
 ☎ 0542) 21-2137

あ  
と  
か  
き

なにしろ楽しかった。下手ながら、編集の仕  
 事が、こんなに人を虜にするものとは知らな  
 かった。女性の地位向上の為、「青鞥」の項(明治)  
 とは全く異質の、一歩、一歩、足が地に着いた  
 地道な努力を、それぞれが心掛けられない限り、女  
 性は経済躍進の陰に、置き去りにされてしまう。

(M.O)

土井馨牙の「新秋」、西風一たび払えば夏蹤無  
 く山紺、葉黄都て容を改む、唯雲情の未だ冷や  
 かならざる処有り少些の火色残峰を綴る…この  
 ごろ教えていただいた詩吟の一つ。秋になった  
 のにまだ雲の峰には夏の光が残っている。やり  
 残したものが多すぎて心が痛む。

(K.M)

横笛の音が聞こえてくる。子供達は今夜も練  
 習している。秋祭日も近い。企画、取材、原稿  
 書き、編集と進むなか、いろいろな方に協力い  
 ただき、熱心な話しに心暖まる思いです。(S.O)